

東京都における児童養護施設等退所者への アンケート調査報告書

平成 23 年 8 月
東京都福祉保健局

目 次

はじめに	1
第1章 調査の概要	2
(回答者の属性)	3
(社会的養護の状況)	4
第2章 調査結果の概要	6
I 現在の生活について	6
1 現在の仕事の状況	6
2 現在の仕事の雇用形態	6
3 収入状況	7
4 生活保護	8
5 最終学歴	9
6 現在困っていること	11
II 施設で生活していたときのことについて	12
1 施設生活で経験したことが、社会生活への準備に役立ったか	12
2 施設入所中に身についたと思うもの	13
III 施設を退所した前後について	14
1 退所に向けた施設の指導や支援について	14
2 施設退所に際して支えになっていた人	15
3 施設退所直後に「まず困ったこと」	16
4 施設退所直後の困ったとき、主に誰に相談したか	18
5 退所前後にはどのような支援が望ましいか	18

IV	退所後の進路について	19
1	施設で進路に関する相談は十分にできたか	19
2	進路を選択する際に、気持ち・意向は反映されたか	21
3	就職活動に際して、施設から受けた支援	21
4	退所後に就いた仕事の期間	22
5	進学に際して、施設から受けた支援	22
6	施設退所後に進学した学校	23
7	進学した学校に現在も続けて在籍（あるいは卒業）しているか	23
8	学校を続ける上で大変だと感じたこと	24
9	中途退学した理由	25
V	施設との交流などについて	26
1	現在、施設との交流があるか	26
2	教育について、機会があれば再度進学したい、 あるいは進学し直したいと考えたことがあるか	26
VI	自由意見	27
第3章	まとめ	34

はじめに

保護者がいない子供や虐待を受けた子供など、様々な事情により家庭で暮らすことができない子供は増加傾向にあり、東京都では現在約 4,000 人の子供が児童養護施設などで生活しています。

児童養護施設などで生活する子供は、家庭復帰や高校卒業などを機に施設を退所し、社会へ巣立っていきますが、頼れる親や家族がいない子供は、自分の力で多くの困難に立ち向かわなければなりません。

今日の厳しい社会経済状況において、社会的養護のもとで育った子供が、次代を担う一員として自立していくためには、家庭で育った子供と同じスタートラインに立って自立していけるよう支援していくことが必要です。

また、こうした自立支援のあり方を検討していくためには、施設退所前後の状況、現在の生活や就労の状況など、施設退所後に直面した様々な問題やニーズを把握することが必要です。

しかし、児童養護施設などを退所した方が、その後社会でどのように暮らしているのか、退所後の生活や就労状況等について、実態に関する調査はこれまでほとんど行われておらず、十分な把握ができていませんでした。

このため、東京都では初めて、児童養護施設などを退所した方に関する実態調査を実施しました。調査方法はアンケート調査とし、施設を退所された方ご本人に答えていただくことにより、具体的に実態を把握することとしました。

調査にご協力いただきました皆様に心から感謝を申し上げます。

また、本調査は、各施設や養育家庭などにご協力いただき実施しました。ご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

第1章 調査の概要

1 調査の目的

児童養護施設などを退所した方の生活や就労の状況、施設退所前後の状況などを把握し、自立に向けた支援の課題を明らかにする。

2 調査対象者

東京都所管の児童養護施設、自立援助ホーム、児童自立支援施設、養育家庭を退所後1年から10年経過した方(3,920人)のうち、施設などが連絡先を把握している方(1,778人)。

3 調査の方法

自己記入式のアンケートによる。

4 調査の実施時期

平成22年12月から平成23年1月まで

5 回答者数

673人(回答率37.9%)

6 調査結果の集計方法

設問ごとに、総回答数から「無記入」を除いた有効回答数を母数とした。

7 その他

本文中の「児童養護施設など」は、本調査対象の児童養護施設、自立援助ホーム、児童自立支援施設及び養育家庭をいう。

(回答者の属性)

・性別

区分	回答者数	割合
男性	297 人	44.1%
女性	356 人	52.9%
不明	20 人	3.0%
合計	673 人	100.0%

・年齢

区分	回答者数	割合
16 歳～17 歳	50 人	7.4%
18 歳～19 歳	116 人	17.2%
20 歳～24 歳	312 人	46.4%
25 歳～30 歳	169 人	25.1%
不明	26 人	3.9%
合計	673 人	100.0%

・退所した施設などの種別

区分	回答者数	割合
児童養護施設	533 人	79.2%
自立援助ホーム	53 人	7.9%
児童自立支援施設	50 人	7.4%
養育家庭	37 人	5.5%
合計	673 人	100.0%

・退所年別

区分	回答者数	割合
平成 22 年	104 人	15.4%
平成 21 年	98 人	14.6%
平成 20 年	78 人	11.6%
平成 19 年	63 人	9.4%
平成 18 年	63 人	9.4%
平成 17 年	52 人	7.7%
平成 16 年	45 人	6.7%
平成 15 年	51 人	7.6%
平成 14 年	43 人	6.4%
平成 13 年	42 人	6.2%
平成 12 年	5 人	0.7%
不明	29 人	4.3%
合計	673 人	100.0%

(社会的養護の状況)

1 社会的養護とは

社会的養護とは、様々な事情により家庭で暮らすことができない子供に、家庭での養育に代わる養育を公的に保障し、自立に向けた育成を行うことである。

2 施設などの概要

(1) 児童養護施設

保護者のない児童（乳児を除く。ただし、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、乳児を含む。）、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設

(2) 自立援助ホーム

義務教育終了後に、児童養護施設や児童自立支援施設を退所し、就職する子供等のうち、なお、援助の必要な子供を入所させ、相談その他の日常生活上の援助および生活指導を行うことによって、社会的に自立するよう援助する施設

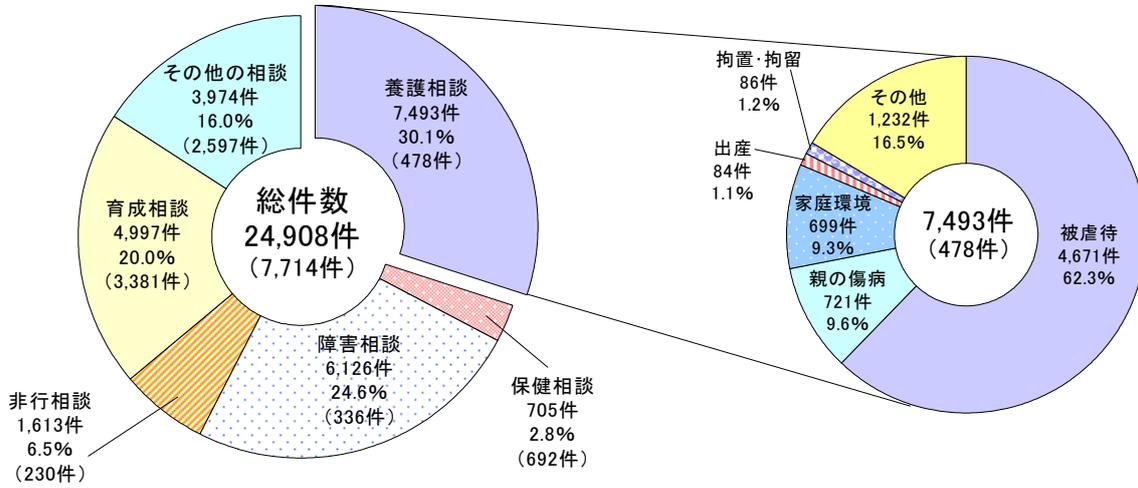
(3) 児童自立支援施設

不良行為をした、又はするおそれのある子供や、家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する子供を入所させ、又は保護者の下から通わせて、個々の子供の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設

(4) 養育家庭

家庭で暮らすことができない子供を、養子縁組を目的とせずに、一定期間養育する家庭

3 東京都児童相談所相談別受理状況（平成 22 年度）



※（ ）は電話相談件数の再掲

資料：東京都福祉保健局調べ

4 児童養護施設などへの入所及び里親委託数の推移



※各年 3 月 1 日現在の在籍者数（養育家庭は、各年 3 月 31 日現在の委託児童数）。

※養育家庭には、平成 21 年度からはファミリーホームを含む。

資料：東京都福祉保健局調べ

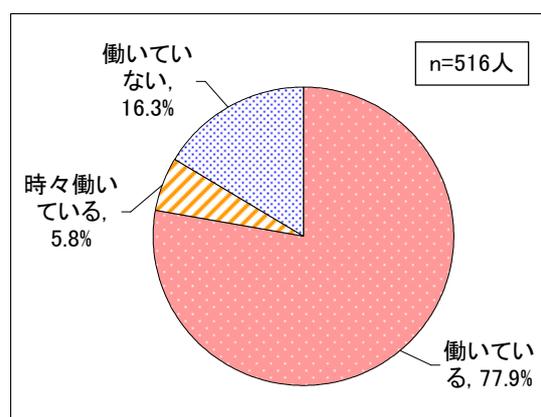
第2章 調査結果の概要

I 現在の生活について

児童養護施設などで育った方の就労状況や困っていることなど、現在の生活の状況を調査した。

1 現在の仕事の状況

現在の仕事の状況について聞いたところ、働いている人は77.9%、働いていない人は16.3%であった。

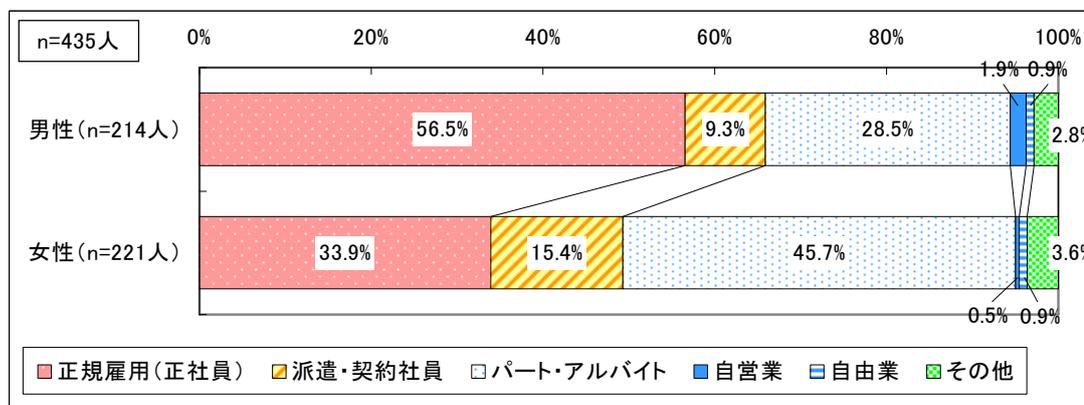


※現在在学中の方の回答は除く

2 現在の仕事の雇用形態

現在働いている人の雇用形態の状況を見ると、男性は「正規雇用（正社員）」が56.5%、「パート・アルバイト」が28.5%、女性は「正規雇用（正社員）」が33.9%、「パート・アルバイト」が45.7%となっている。

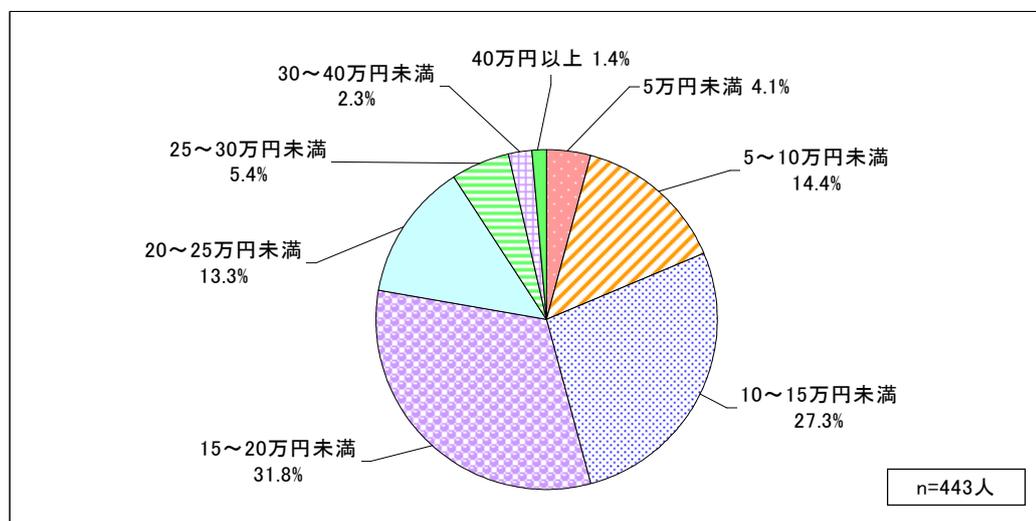
平成22年度労働力調査（総務省統計局、詳細集計）によると、15～24歳の雇用者（在学中を除く）のうち、男性は「正規の職員・従業員」が75.3%、「パート・アルバイト」が17.6%、女性は「正規の職員・従業員」が64.1%、「パート・アルバイト」が25.6%となっていることから、本調査の回答者の正規雇用の割合は相対的に低いと考えられる。



※現在働いていない方及び在学中の方の回答は除く

3 収入状況

収入状況（月収、手取り（注））について聞いたところ、「15～20万円未満」が31.8%と最も多く、次いで、「10～15万円未満」（27.3%）、「5～10万円未満」（14.4%）が多い。なお、0～20万円未満で全体の約8割（77.6%）を占めている。



※現在働いていない方及び在学中の方の回答は除く

（注）手取りは、一般的には給料から「税金や社会保険料など」を除いた金額を指すが、回答者の判断に任せている。

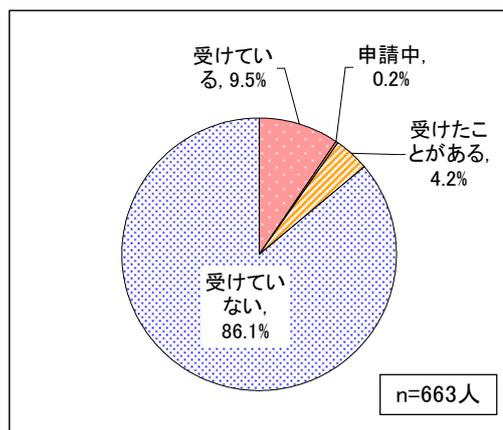
4 生活保護

生活保護の受給状況については、生活保護を受けている人の割合は9.5%であった。

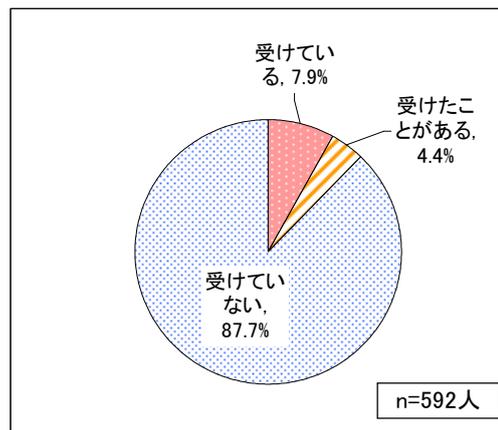
なお、18歳未満は被保護世帯の被扶養者であると推測されるため、これらを除くと、生活保護を受けている人の割合は7.9%である。

平成21年度福祉・衛生統計年報（東京都福祉保健局）によると、都内の生活保護受給割合（保護率）は約1.8%となっており、本調査の回答者の生活保護受給割合は相対的に高いといえる。

(調査回答者全体)



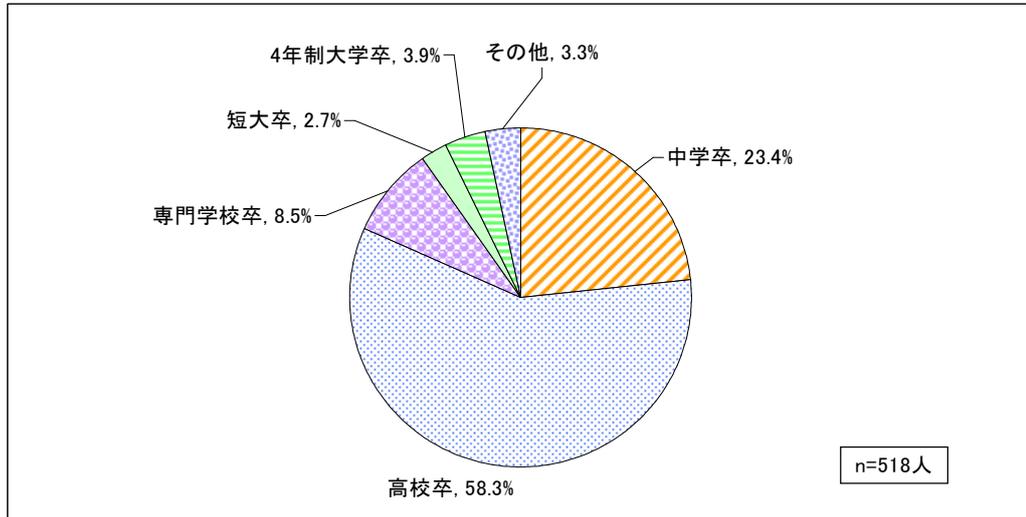
(調査回答者のうち18歳未満を除く)



5 最終学歴

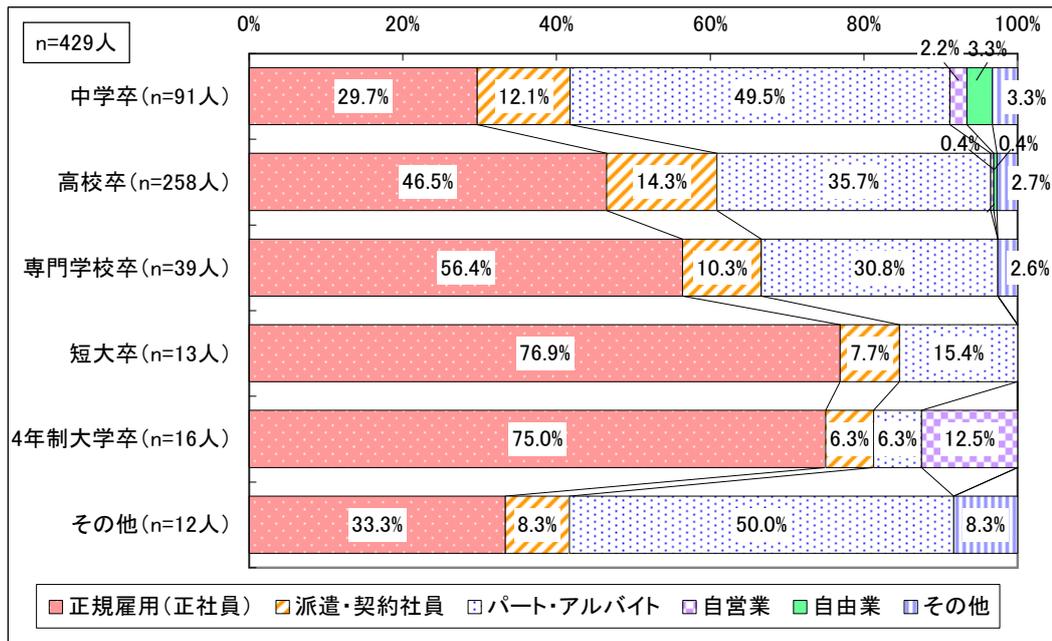
最終学歴は、「高校卒」が 58.3%と最も多く、次いで、「中学卒」が 23.4%と多い。また、大学卒等（4年制大学卒、短大卒、専門学校卒）は 15.1%となっている。

平成 22 年度学校基本調査報告（東京都総務局）によると、高等学校等への進学率は 98.0%、大学等への進学率は 65.4%となっていることから、本調査回答者の中学卒の割合は相対的に高く、また、大学等への進学率は相対的に低いと考えられる。



※現在在学中の方の回答は除く

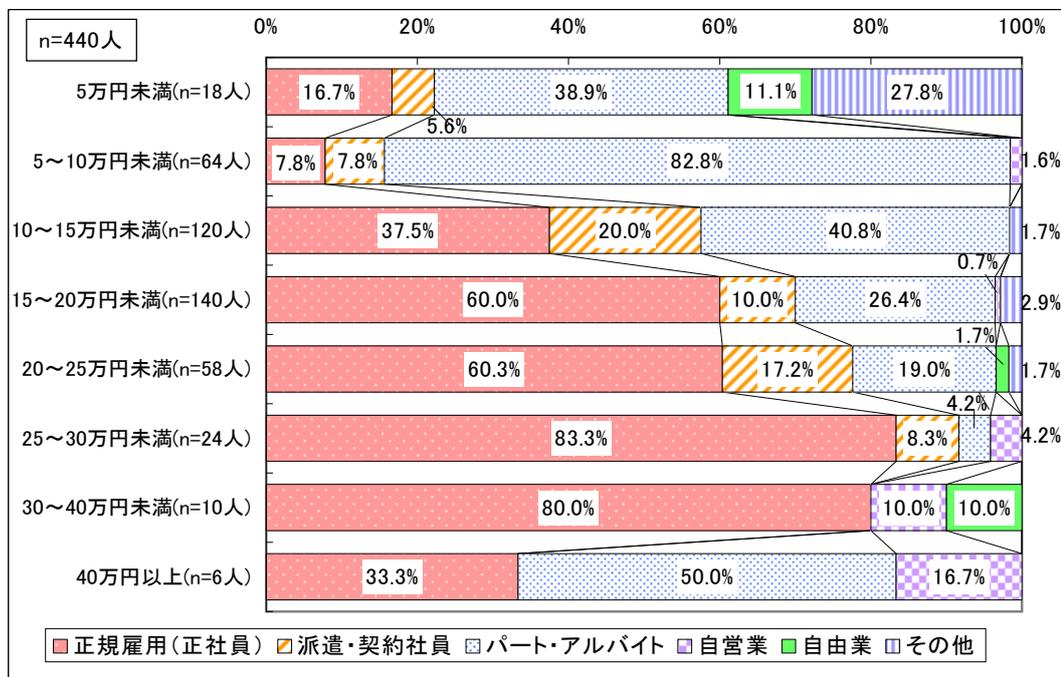
「最終学歴」と「現在の仕事の雇用形態」との関係を見ると、正規雇用(正社員)の割合は、中学卒が 29.7%と最も低く、高校卒が 46.5%、専門学校卒が 56.4%、短大卒が 76.9%、4年制大学卒が 75.0%となっていることから、特に中学卒の雇用形態の不安定な状況がうかがえる。



※現在働いていない方及び在学中の方の回答は除く

「現在の仕事の雇用形態」と「収入状況（月収、手取り）」との関係を見ると、20～25万円未満や25～30万円未満など比較的収入の多い区分は、正規雇用（正社員）の割合が最も高い。

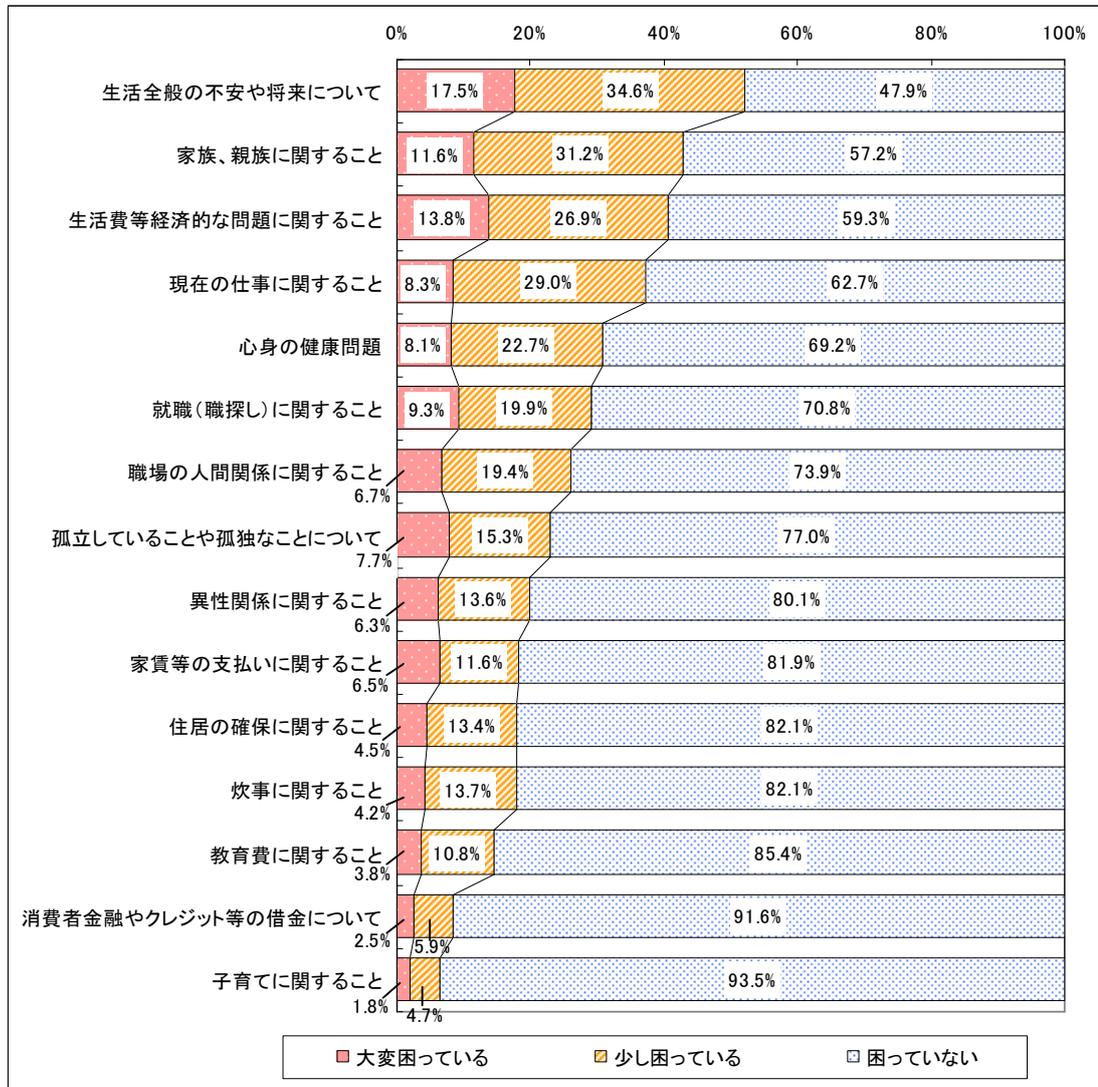
一方で、月収が15万円未満ではパート・アルバイトの割合が高い。



※現在働いていない方及び在学中の方の回答は除く

6 現在困っていること

現在困っていることについて、「大変困っていること」と「少し困っている」を合わせると、最も多いのは「生活全般の不安や将来について」(52.1%)であり、次いで「家族、親族に関すること」(42.8%)、「生活費等経済的な問題に関すること」(40.7%)、「現在の仕事に関すること」(37.3%)が多い。

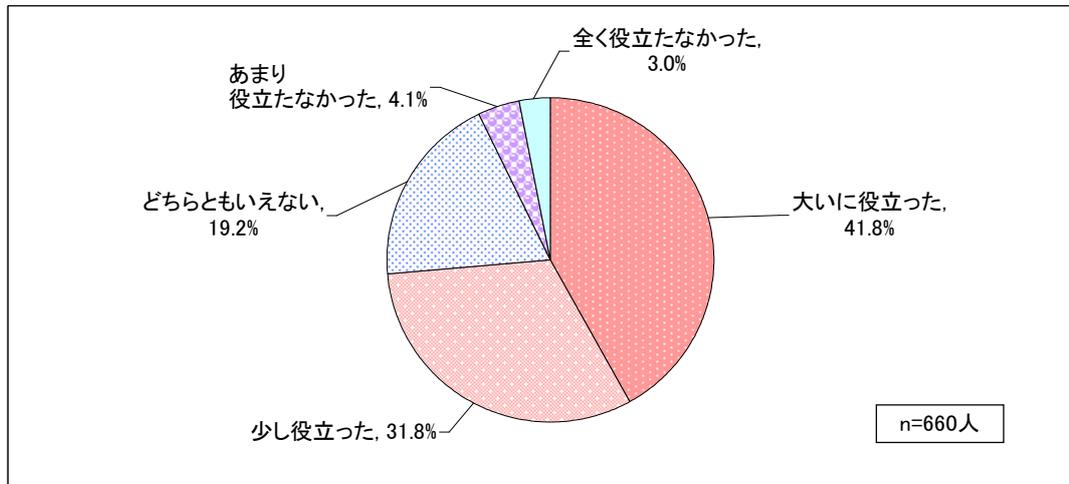


Ⅱ 施設で生活していた時のことについて

児童養護施設などにいるときに経験したことが社会生活への準備に役立ったか、また、施設にいるときに身についたと思うものについて調査した。

1 施設生活で経験したことが、社会生活への準備に役立ったか

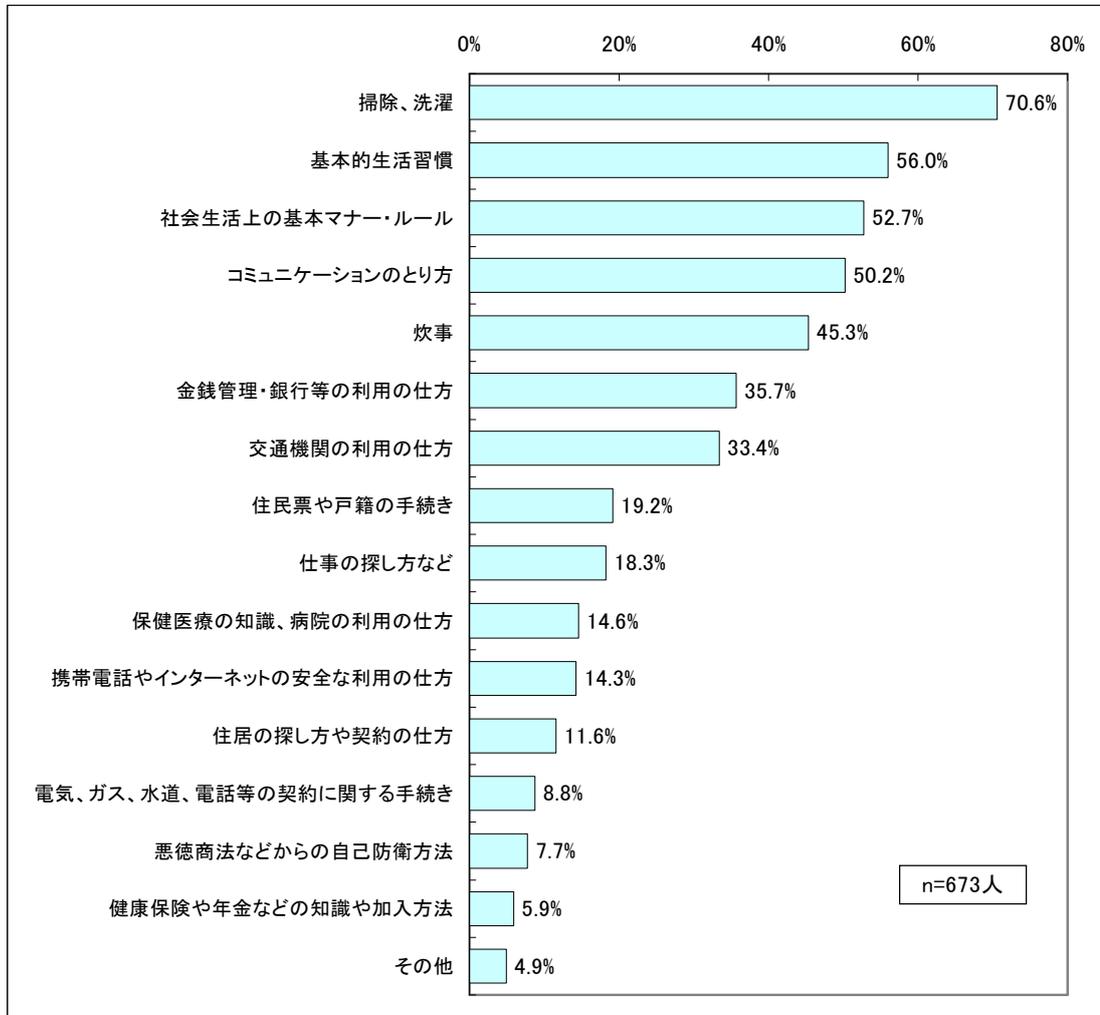
施設生活で経験したことが、社会生活への準備に役立ったか聞いたところ、「大いに役立った」は41.8%、「少し役立った」は31.8%で、7割以上が役立ったと回答している。



2 施設入所中に身についたと思うもの（複数回答可）

施設入所中に身についたと思うものは、「掃除、洗濯」が70.6%と最も多く、次いで、「基本的生活習慣」（56.0%）、「社会生活上の基本マナー・ルール」（52.7%）が多い。

一方、「健康保険や年金などの知識や加入方法」は5.9%、「電気、ガス、水道、電話等の契約に関する手続き」は8.8%となっており、社会に出てからの手続き等に関することは、身についたという回答が少ない。



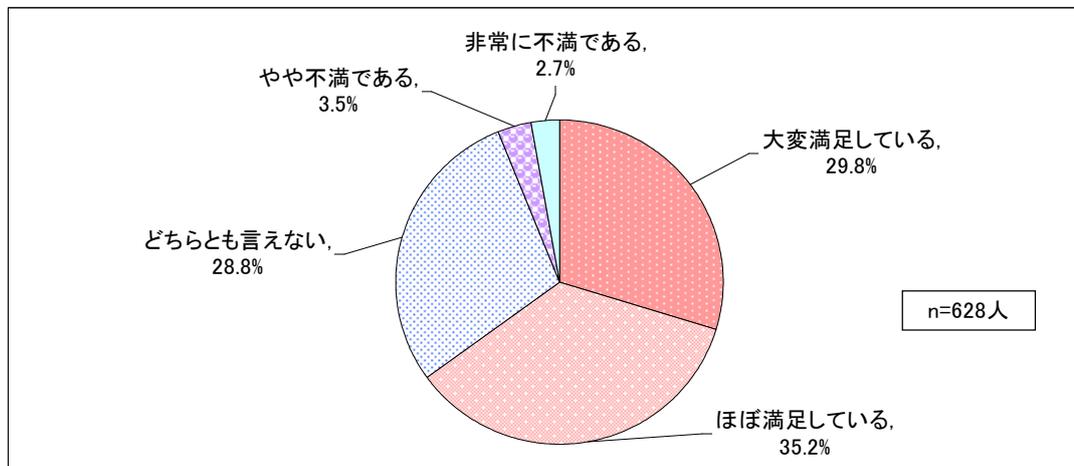
Ⅲ 施設を退所した前後について

施設などにいるときに、進学や就職に向けて進路に関する相談が十分にできたか、また、施設などから具体的にどのような支援を受けることができたかを調査した。

1 退所に向けた施設の指導や支援について

退所に向けた施設の指導や支援について、どのように感じているか聞いたところ、「大変満足している」と回答した人は29.8%、「ほぼ満足している」と回答した人は35.2%であった。

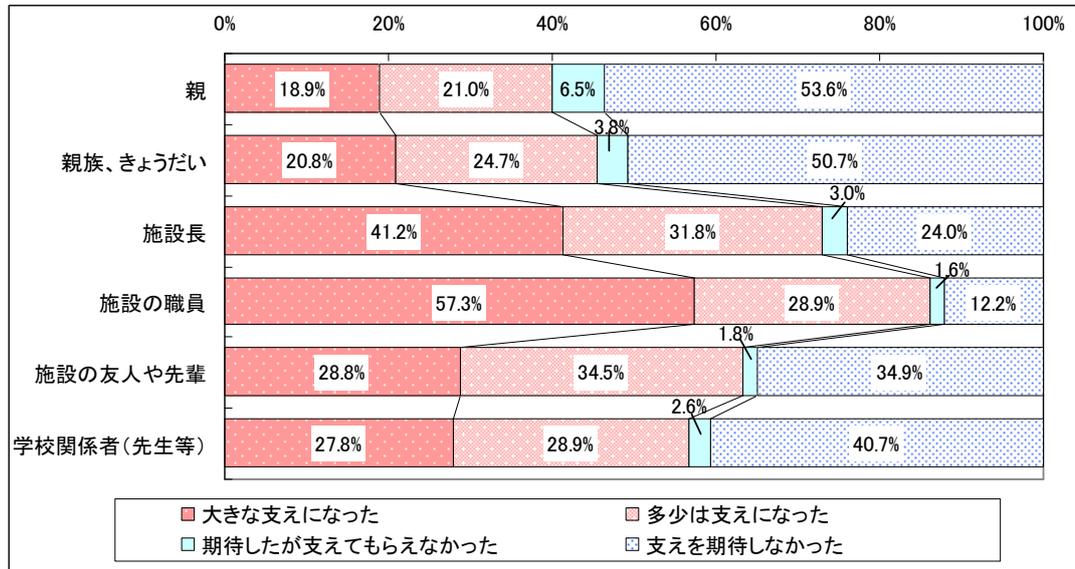
一方、「やや不満である」は3.5%、「非常に不満である」は2.7%であった。



2 施設退所に際して支えになっていた人

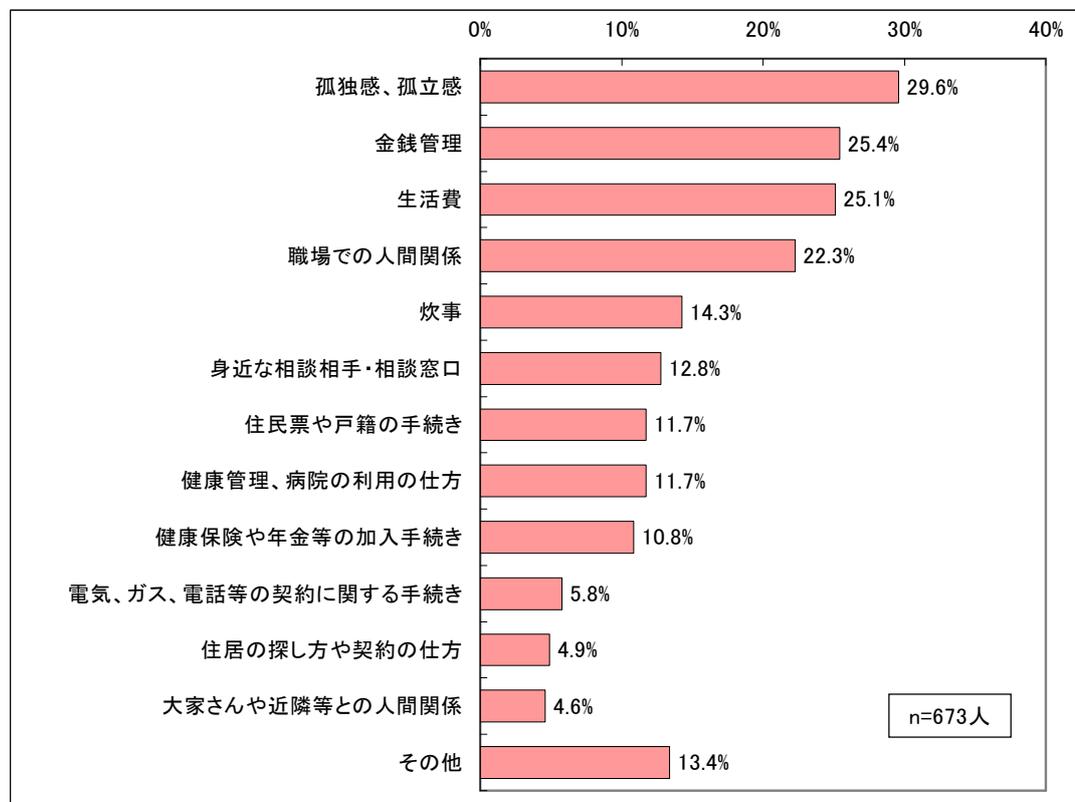
施設退所に際して支えになっていた人について、「大きな支えになった」が最も多いのは「施設の職員」(57.3%)であり、次いで「施設長」(41.2%)、「施設の友人や先輩」(28.8%)が多い。

これに比べ、「親」、「親族、きょうだい」について「大きな支えになった」と回答した人は少ない一方、「支えを期待しなかった」という回答はそれぞれ53.6%、50.7%と多い。



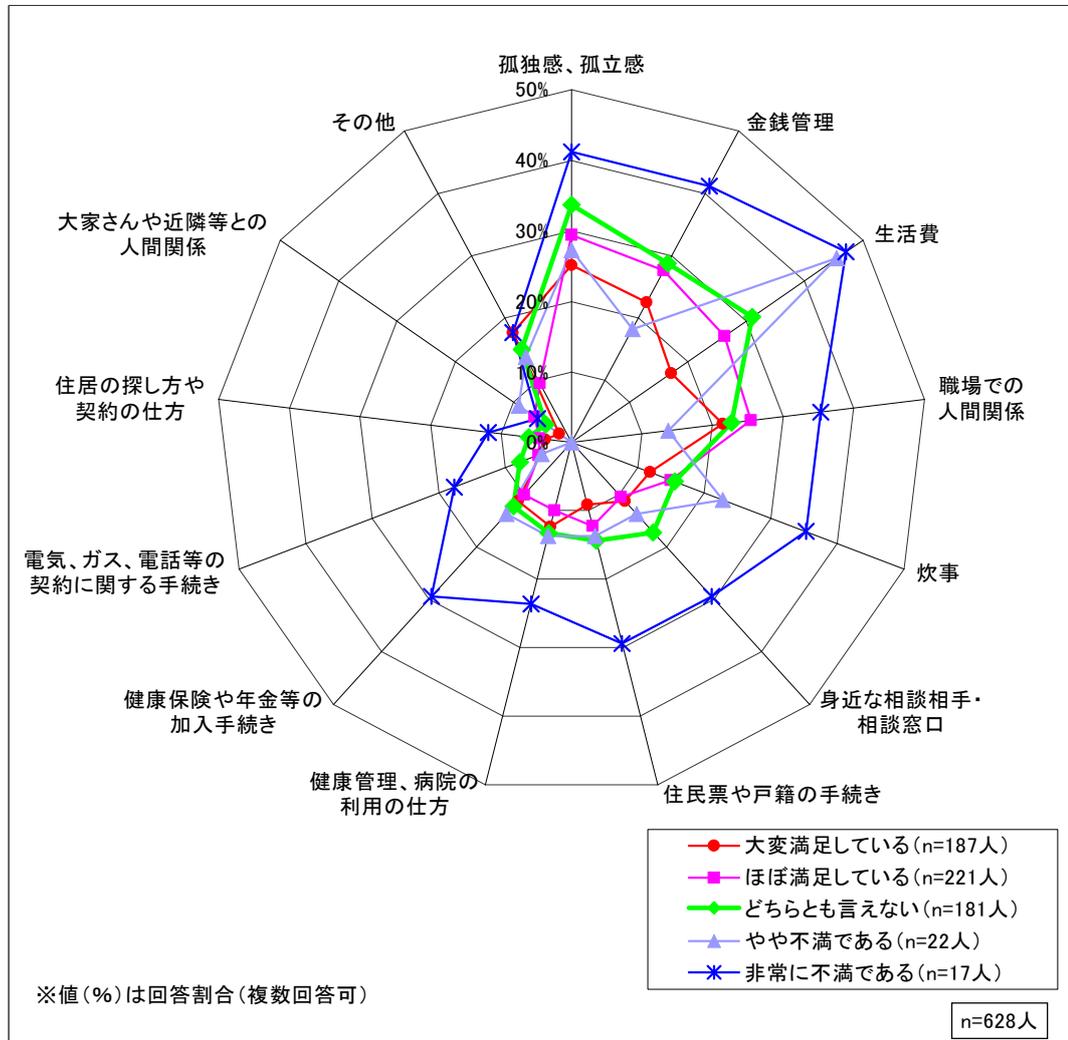
3 施設退所直後に「まず困ったこと」(複数回答可)

施設退所直後に「まず困ったこと」について聞いたところ、「孤独感、孤立感」が29.6%と最も多く、次いで、「金銭管理」(25.4%)、「生活費」(25.1%)が多い。



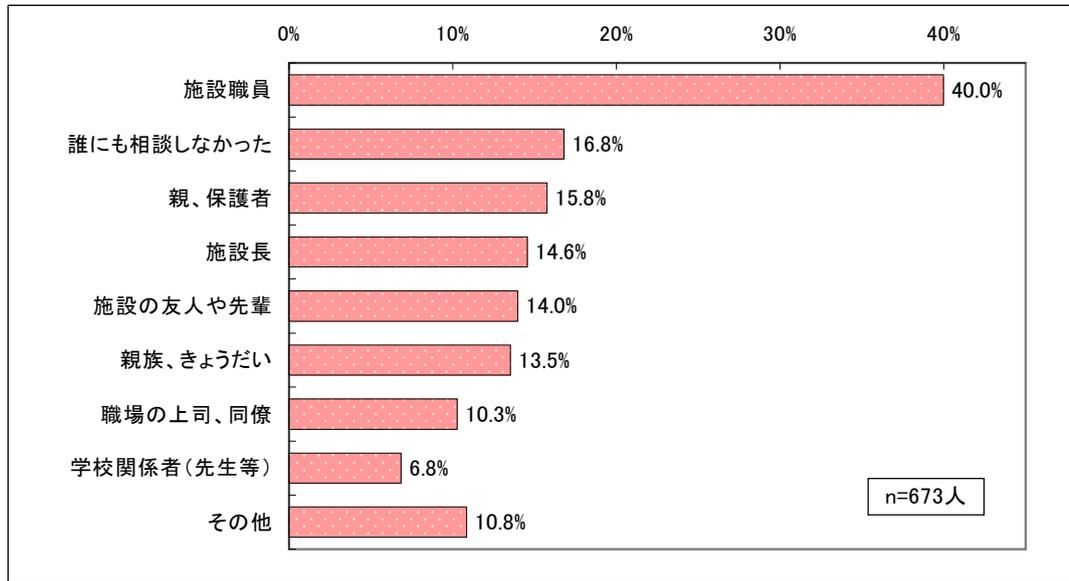
また、退所に向けた施設の指導や支援について「やや不満である」もしくは「非常に不満である」と回答した人は、施設退所直後に困ったことを複数挙げる割合が高い。

特に「非常に不満である」と回答した人は、「孤独感、孤立感」、「金銭管理」、「生活費」など全体的に困ったことを挙げる割合が高い。



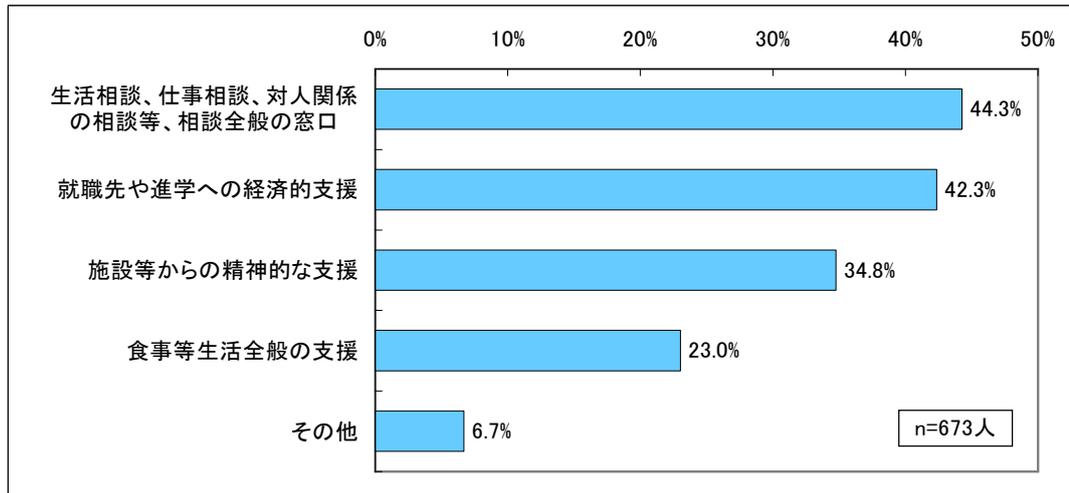
4 施設退所直後の困ったとき、主に誰に相談したか（複数回答可）

施設退所直後の困ったとき、主に誰に相談したか聞いたところ、「施設職員」が40.0%と最も多く、次いで「誰にも相談しなかった」が16.8%と多い。



5 退所前後にはどのような支援が望ましいか（複数回答可）

退所前後にはどのような支援が望ましいかについて聞いたところ、回答者のうち4割以上が、「相談全般の窓口」と「経済的支援」を挙げている。



IV 退所後の進路について

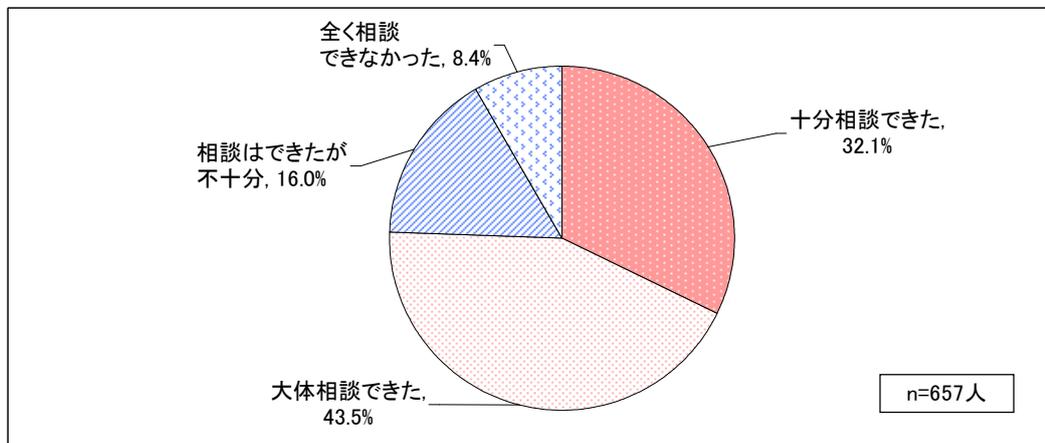
施設などを退所した後の進路や、進学または就職した後の状況を調査した。

なお、児童自立支援施設については、中学校卒業までに退所し、高校へ進学する児童が大半であるため、一部、他の施設などと別に整理した。

1 施設で進路に関する相談は十分にできたか

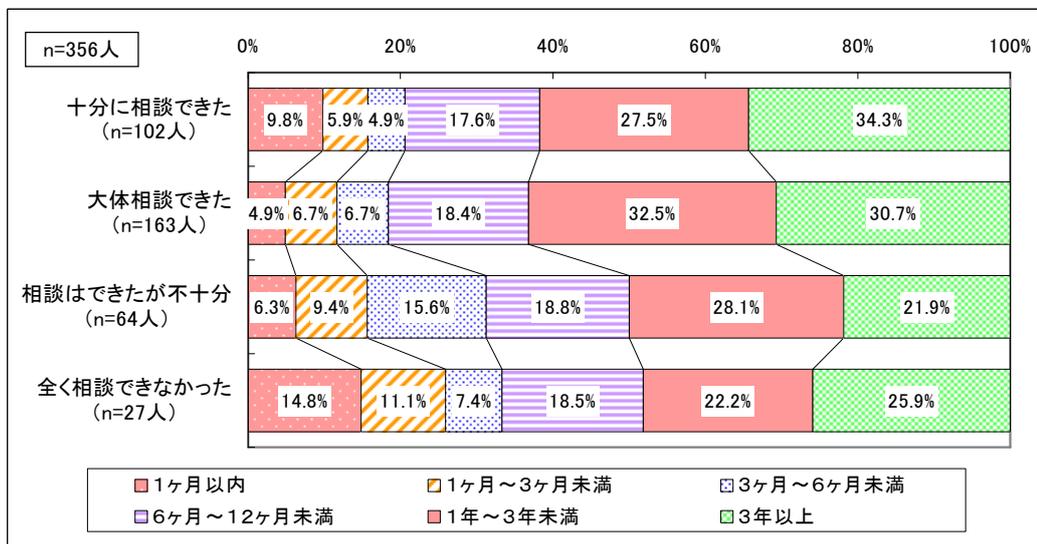
施設で進路に関する相談が十分にできたか聞いたところ、「十分相談できた」は32.1%、「大体相談できた」は43.5%であり、あわせて75.6%が相談できたと回答している。

一方、「相談はできたが不十分」が16.0%、「全く相談できなかった」が8.4%であり、あわせて24.4%が不十分さを感じている。



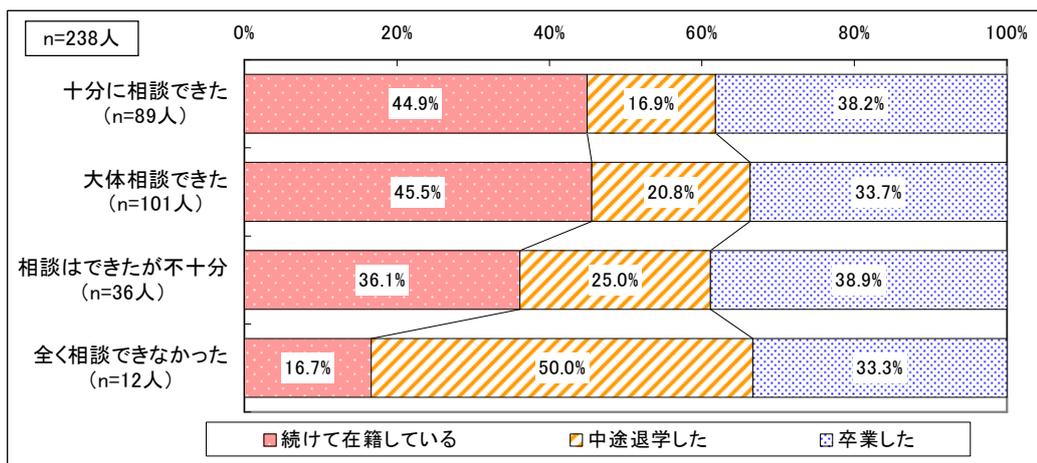
<施設を退所した後、就職した方>

「進路に関する相談の状況」と「退所後に就いた仕事の期間」との関連をみると、「十分に相談できた」や「大体相談できた」と回答した人の6割以上が「1年以上」と比較的長く仕事を続けており、一方、「相談はできたが不十分」「全く相談できなかった」と回答した人の半数以上が1年未満となっている。



<施設を退所した後、進学した方>

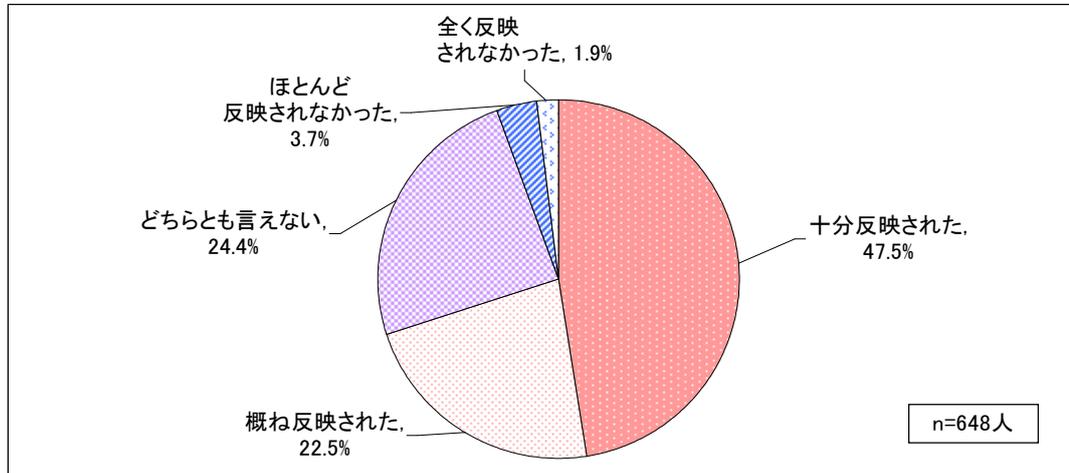
「進路に関する相談の状況」と「進学した学校への在籍状況」との関連をみると、「十分に相談できた」と回答した人は中途退学した人の割合が比較的少ないが、「全く相談できなかった」と回答した人は半数が中途退学しており、施設における相談支援の重要性がうかがえる。



2 進路を選択する際に、気持ち・意向は反映されたか

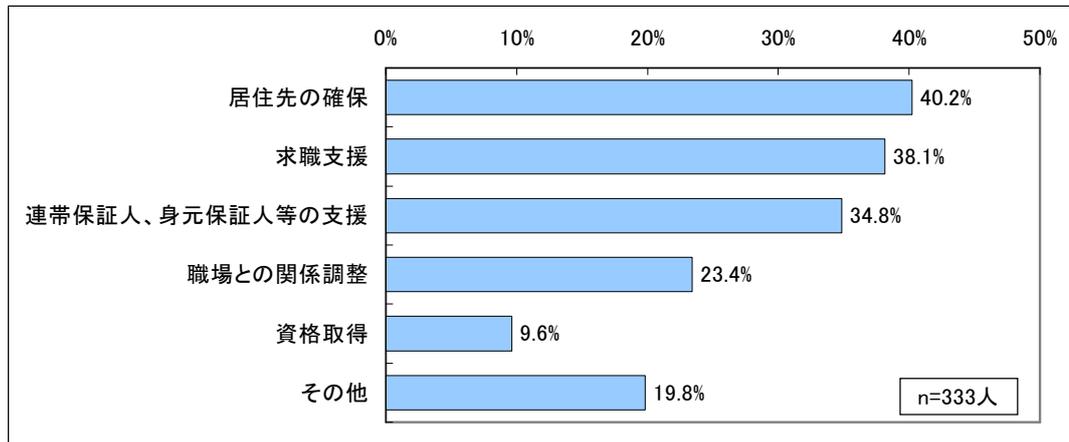
進路を選択する際に気持ち・意向は反映されたか聞いたところ、「十分反映された」と回答した人は47.5%であり、「概ね反映された」と回答した人は22.5%であった。

一方、「ほとんど反映されなかった」は3.7%、「全く反映されなかった」は1.9%であった。



3 就職活動に際して、施設から受けた支援（複数回答可）

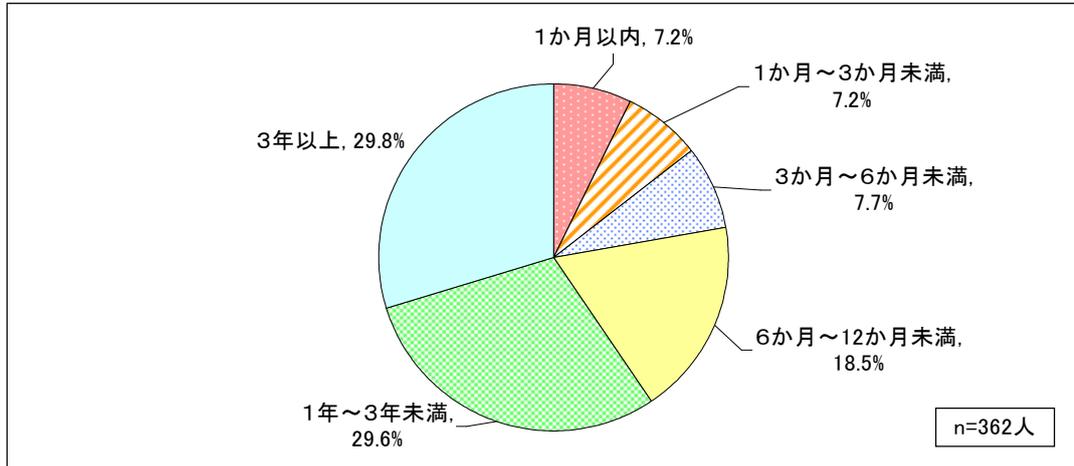
施設を退所した後就職した方に、就職活動に際して施設から具体的にどのような支援を受けたか聞いたところ、「居住先の確保」が40.2%と最も多く、次いで、「求職支援」(38.1%)、「連帯保証人、身元保証人等の支援」(34.8%)が多い。



4 退所後に就いた仕事の期間

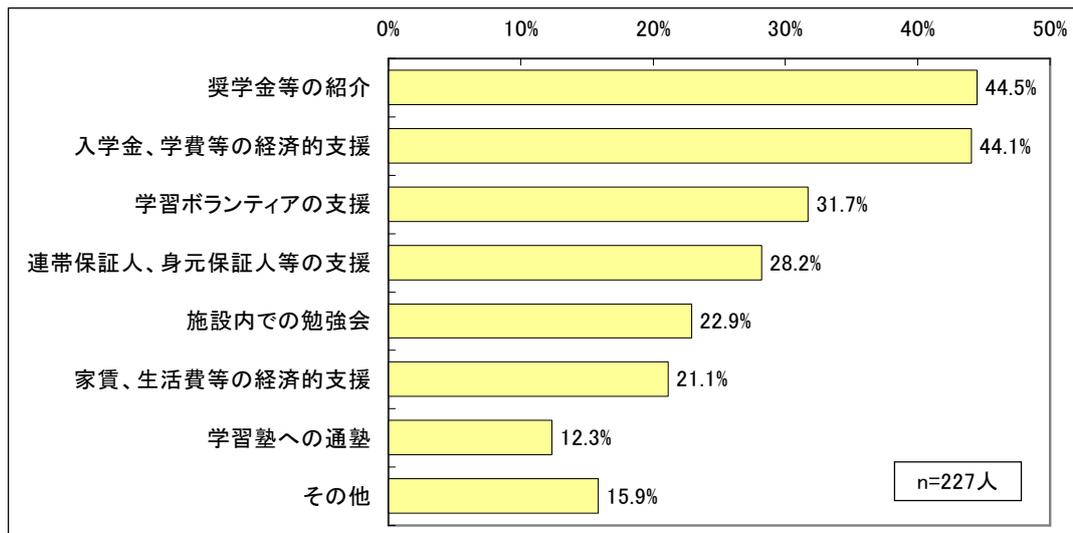
施設を退所した後就職した方に、退所後に就いた仕事の期間について聞いたところ、「3年以上」が29.8%と最も多く、次いで、「1年～3年未満」(29.6%)、「6か月～12か月未満」(18.5%)が多い。

また、「1か月以内」から「6か月～12か月」までを合計すると40.6%であり、全体の約4割が1年未満となっている。



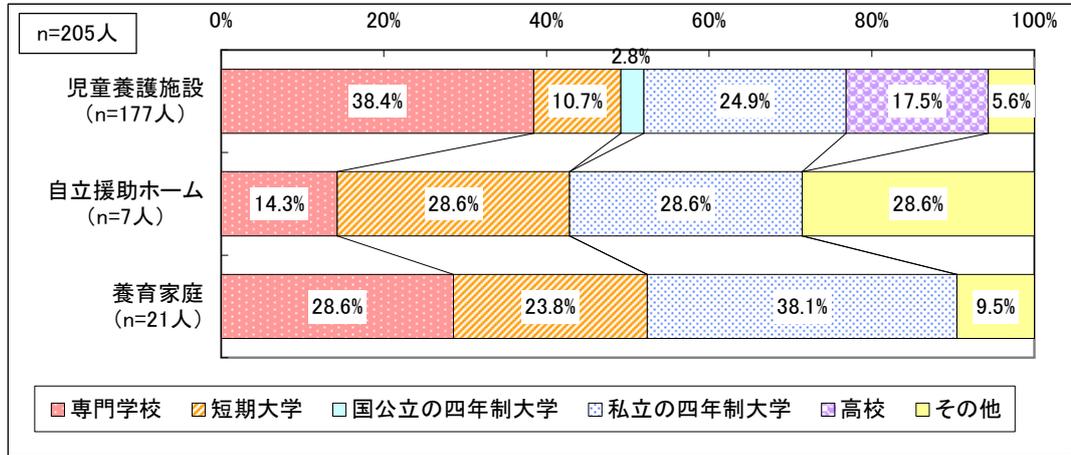
5 進学に際して、施設から受けた支援（複数回答可）

施設を退所した後進学した方に、進学に際して施設から具体的にどのような支援を受けたか聞いたところ、「奨学金等の紹介」が44.5%と最も多く、次いで、「入学金、学費等の経済的支援」(44.1%)、「学習ボランティアの支援」(31.7%)、「連帯保証人、身元保証人等の支援」(28.2%)が多い。

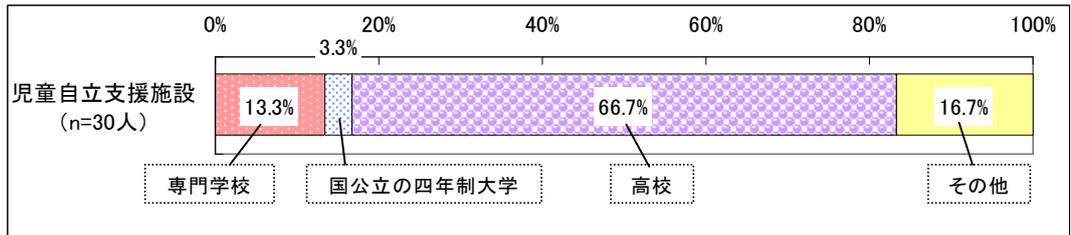


6 施設退所後に進学した学校

施設退所後に進学した学校を施設種別ごとにみると、児童養護施設では「専門学校」が38.4%と最も多く、次いで、「私立の四年制大学」(24.9%)、「高校」(17.5%)が多い。また、養育家庭では「私立の四年制大学」が38.1%と最も多く、次いで、「専門学校」(28.6%)、「短期大学」(23.8%)が多い。

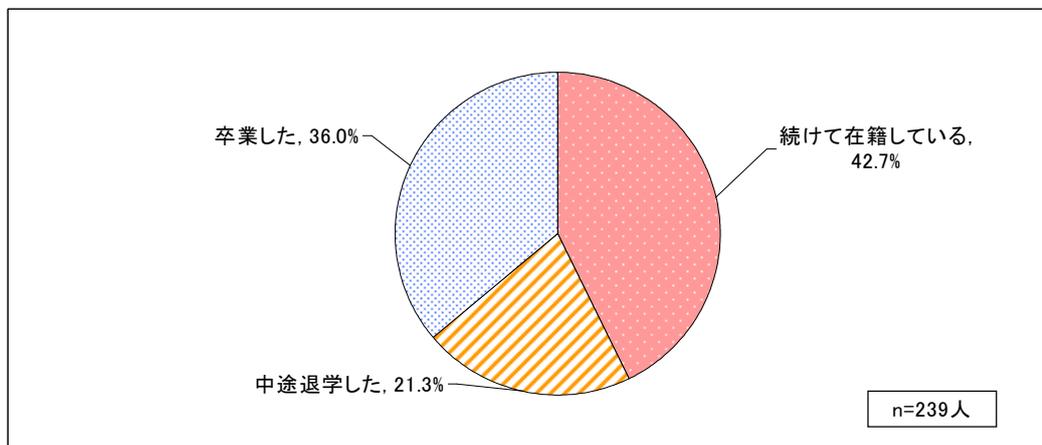


児童自立支援施設では、「高校」が66.7%と最も多い。



7 進学した学校に現在も続けて在籍（あるいは卒業）しているか

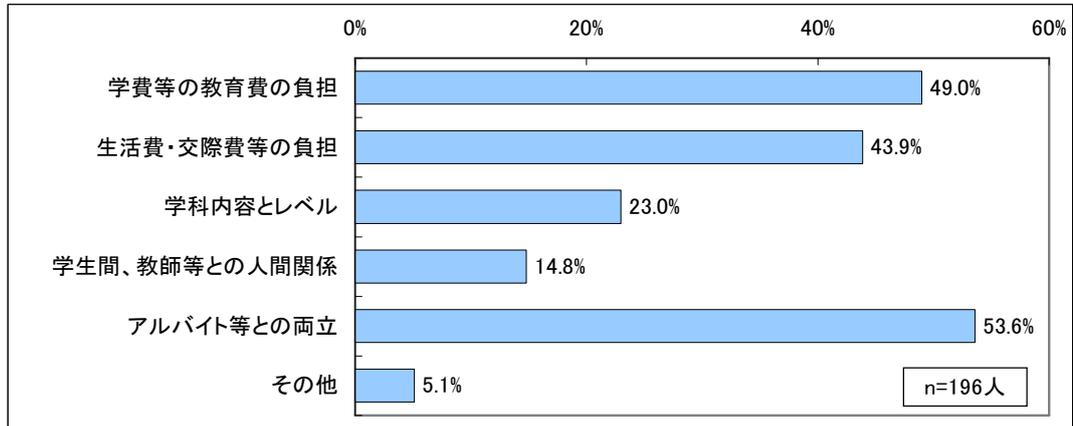
施設退所後に進学した学校に現在も在籍（あるいは卒業）しているか聞いたところ、「続けて在籍している」と「卒業した」をあわせると78.7%であり、一方、「中途退学した」は21.3%であった。



8 学校を続ける上で大変だと感じたこと（複数回答可）

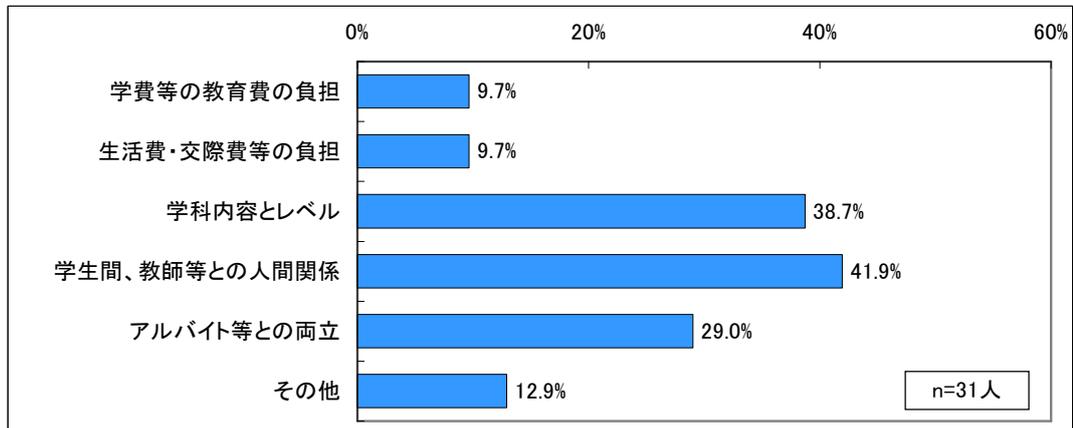
学校を続ける上で大変だと感じたことについて聞いたところ、児童養護施設、自立援助ホーム、養育家庭の合計では「アルバイト等との両立」(53.6%)、「学費等の教育費の負担」(49.0%)、「生活費・交際費等の負担」(43.9%)など、経済的な問題が多い。

(児童養護施設、自立援助ホーム、養育家庭の合計)



施設を退所した後、高校への進学が多い児童自立支援施設では、「学生間、教師等との人間関係」(41.9%)、「学科内容とレベル」(38.7%)が多い。

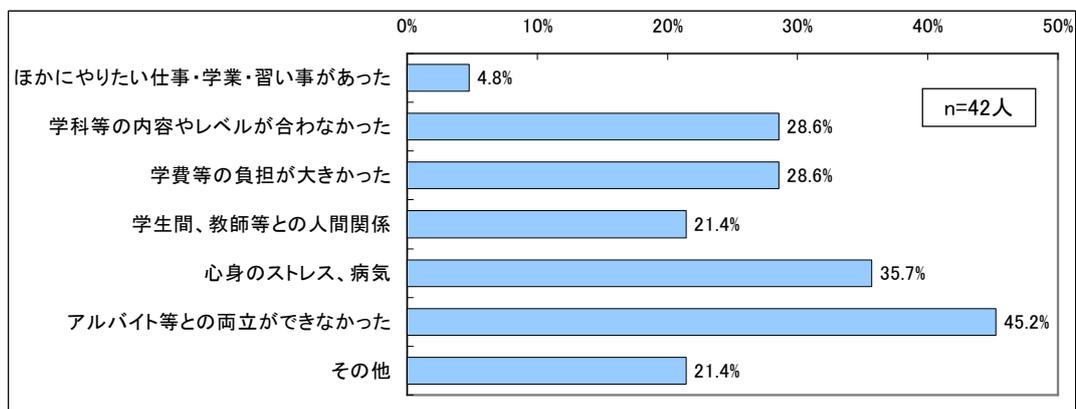
(児童自立支援施設)



9 中途退学した理由（主なものを2つまで）

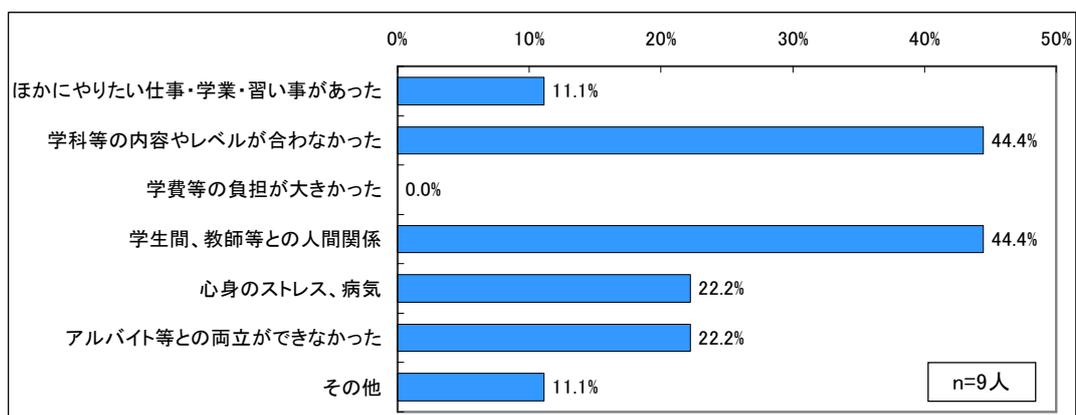
「中途退学した」と答えた方に、学校を途中でやめた理由を聞いたところ、児童養護施設、自立援助ホーム、養育家庭の合計では、「アルバイト等との両立ができなかった」が45.2%と最も多い。

（児童養護施設、自立援助ホーム、養育家庭の合計）



児童自立支援施設では、「学科等の内容やレベルが合わなかった」と「学生間、教師等との人間関係」が44.4%と最も多い。

（児童自立支援施設）

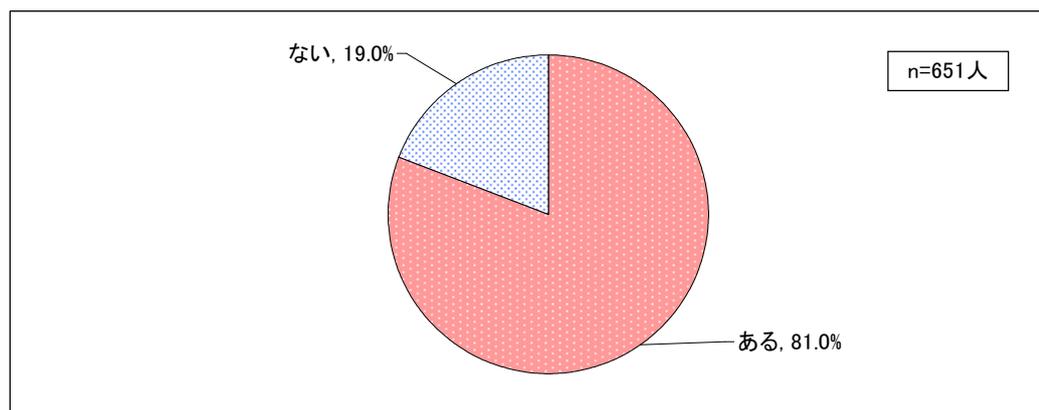


V 施設との交流などについて

現在、施設との交流があるか、また、再度進学したいと考えたことがあるかを調査した。

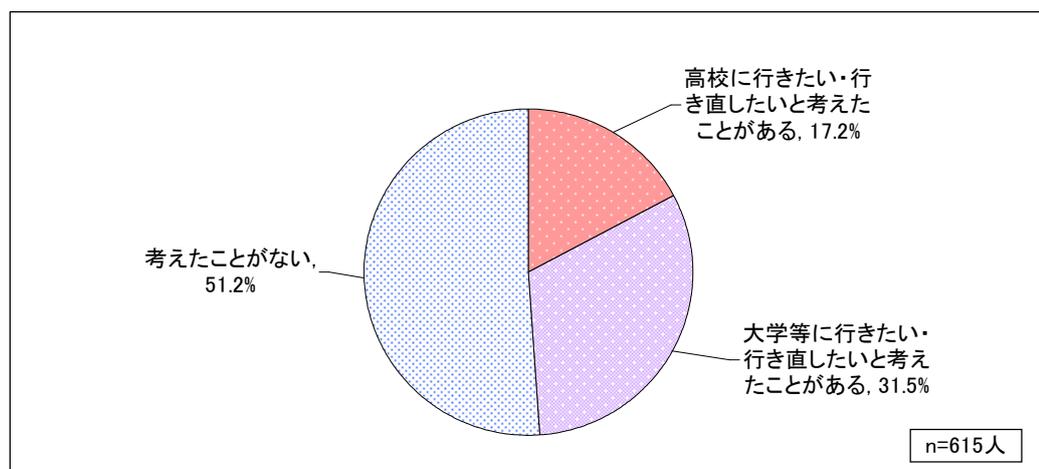
1 現在、施設との交流があるか

現在、施設との交流があるか聞いたところ、「交流がある」と回答した人は81.0%、「交流がない」と回答した人は19.0%であった。



2 教育について、機会があれば再度進学したい、あるいは進学し直したいと考えたことがあるか

教育について、機会があれば再度進学したい、あるいは進学し直したいと考えたことがあるか聞いたところ、「高校に行きたい・行き直したいと考えたことがある」は17.2%、「大学等に行きたい・行き直したいと考えたことがある」は31.5%であり、全体の約半数が、再度進学したい、あるいは進学し直したいと考えたことがあると回答している。



VI 自由意見

記載内容	
施設などに対する感謝や不満	
	私は養護施設にいて、とてもよかったと今は思っています。たくさんの人と出会えたり、本当に様々な経験をさせて頂きとても自分の力というか、財産になりました。規則や集団生活、在園中にはイヤだなと思うこともありましたが今では懐かしいし、学べてよかったです。本当に、学園が大好きでした。私にとってとても大切な場所です。14年間育てて頂きとても感謝しています。本当にありがとうございました。これからもっと学園の子が幸せに暮らせるといいです。
	私は施設にいたこと、いたときに会った職員・友人が本当に宝物です。施設でよかった！と心から思ってます。そしてその気持ちは自分の人生を歩く勇気になってます。
	園での生活は、楽しかったし、本当に役に立っています。ありがとうございます。
	とてもいい施設で育ったと思います。卒園後の親子関係は、施設にいるうちからもっと話しておく方が良かったです。
	施設にいたころはやはり世間を知らず園を出てから大変だった事はいっぱいありました。いつも普通においしいごはんが出てきたりと本当に今は炊事の大変さを実感しています。今でもたまに園に行きいろいろな話が出てくるのでちょっとこまった時はたすかります。子育ての事とかもとりあえず今はいい思い出がいっぱいと言った所です。
	私は養護施設に入って、丈夫な体に育てていただき、誠に感謝しています。現在、妻と子供2人の4人暮らしで、働きながら通信大学に通っています。28歳になり、ようやく父親らしく、また社会人として社会全体を見れるようになったと思います。養護施設に大切なものは、もっと社会に対応できる知識(学力)、自立心(体力)だと思っています。これからも卒業生のアンケートをたくさんして、さらに良い養護施設を作ってください。
	私は運良く(良かったのか・・・)伯母の家にお世話になりましたが、長らくコミュニケーションを取っていなかったところへ放りこまれた気分で、とても淋しさを感じました。
	児童養護施設の質が全体的に低い。衣食住さえままたまらないような所すらある。子供達は人生で一番大切な時をすごしている。養育はお金と人材があつてこそ。
	私は、今とても幸せな生活を送っています。高校の先生に悩んでた事を話してから、みんなが助けてくれ、施設での生活をさせてくれて、周りの人達にほんと感謝しています。昔のいやな事は今は考えていません。子供が居る今は、私の様に(昔の事のように)なってほしくないから、私なりに良い母親でいたら子供もおだやかでいてくれるから。本当に施設の先生方ありがとうございました。
	私は良い職員にめぐまれました。施設のイメージは良くないと感じますが私は”楽しかった”です。
	色々な人に助けてもらいこの施設でよかったです。
	児童を色々な場所へ移動させるのはやめたほうがいい。もっとしんちょうに考えた上で行動すべき
	6年間御世話になりました。ありがとうございます。
	〇〇ホームには入れてよかった！
	施設で生活していた時に、妹や弟の様に可愛がっていた子達が全員学校を卒業し、施設を卒園(退所)し、夢に向かって歩んでいってくれることを願っています。
	大変お世話になりました。ありがとうございます！不事に大学を卒業できます！
	施設にいる間に、障害者手帳を取得しました。そのおかげで今は、社協が支援をして下さっています。
	私には両親がいませんが、施設の方が、養育家庭に出してくれた事によって、色々ペンキょうできたし、自分に自信ができました。
	今まで世話をかけた皆様に心から伝えたいです。本当に、ありがとうございました。

記載内容	
	時に優しく、きびしく愛情を注いで教育して下さいました児童施設に感謝しています。社会に出てからより一層、実感いたしました。
	施設にいる間に、社会生活でのルールやマナーを学んでおきたかった。施設を退所したあと、社会生活ルールやマナーに1番困りました。「施設育ちだから・・・。」とバカにされた事もあります。子供が2人いますが、親の手で育てられた事がないので、ちゃんと育てられるか不安になる時があります。施設が、自分の実家になるので、たまに行く事があります。園長が変わっていると行きづらいのが本音です。今は、施設にすごく感謝しています。施設育ちで良かったと思います。
	長い間お世話になった養護施設。施設で生活していたときは気づかなかったことが、今こうして考えてみると大変多くのことを学ばせて頂いたなと感謝しております。だからこそ、今回のアンケート調査を活用して役立てて欲しいと思う所存です。
	施設での思い出は本当に心の支えになりました。自分がこの年齢になるまで生きてこれたのは紛れもなく施設での思い出のお陰です。自分はここで終了ですがこれから多くの恵まれない子供達の為に児童養護施設等の人並みの生活をおくれる場所が必要だと思います。
	施設が自分にしてくれたことに、とても感謝しています。
	職員の人間性を見るべき。
	施設を出てから色々なありがたみを感じるけどやっぱり孤独感はあるかも・・・
	施設での生活がとても良い経験となり、今の生活で生きている。
	施設での生活は楽しく、また勉強になることもたくさんありました。たくさんの支援を頂いたことにはとても感謝しています。
	施設があつてよかった。世の中には、こんなに良い人がいる。母子家庭で母が死んで、東京のおじいさんをたよったけどだめだった
	学園のグループホームの生活だけでなく、〇〇先生がお母さんみたいにとっても心配して下さいました。いまでも電話や、ときどき顔をみに行くとほっとする。
	私は施設で暮らせたことを、当時から現在も良かったと思っています。親の考えの中で唯一良い選択だったと思う。施設は、やっぱり他人との暮らしですが、それでも他人との信頼などは十分に築けます。家庭で、周囲の人が見えない所で自分の親に育てられていたら、きっと今の生活はできなかつたし、“施設出身”よりも孤独で心の貧しい人間になっていたと思います。
	施設での経験で感謝してる事は就職活動への支援だけです。私は5歳から入所しましたが施設の1人の職員からの嫌がらせ虐待があった。相談しても相手にしてくれず誰も守ってくれなかつた。
	施設最高！！笑
	大変お世話になりました(施設には)
	楽しい施設生活でした 毎日修学旅行だった。周りに人がいて孤独感がなかつた
	施設の集団生活(上下関係、対人関係(他人との同居だから)が社会にでておおいに役立つ
	施設は良かった 衣食住揃っているからまたもどりたい 社会の対人関係はきつい 自分で稼ぐことはつらい 施設でブーブーいこうは甘つたれ
	知的障害でもないのに障害児童学級に入れなくて欲しかった。・おかげで高校での勉強においつくのが大変だった。
	職員の態度を直してほしい 子供たちのせつしかたと、ことばのつかいかたを直せ。
	お世話になりました
	今になって色々なことに感謝しています。施設にいて良かった。

記載内容
<p>退所してから、施設での生活・支援がどれだけありがたい事なのか、改めて感じました。年に1度でもいいのでアフターケアをしてほしい。親に頼ることができない人は、本当に相談相手に困ります。最初から、自分の事を知っている、施設の職員さんに相談できるのが一番です。そして、緊急時に家にいる事ができなくなった時、施設での一時保護などがあると助かります。今は、とても施設には感謝しています。何か恩返しができるといいんですが…。もっと今在籍している施設の子供たちに施設でのありがたみを感じてほしいです。今まで本当にありがとうございました。</p>
<p>この様なアンケートを二度とさせないで下さい。私にとっては施設での生活は人生の心残りです。出来る事なら、人生やり直したいし、生き変わりたい(人生を)と思う、今日この頃…。</p>
<p>余り児童にガミガミ言わずほどほどに児童と上手くコミュニケーションをすると良いんじゃない 笑</p>
<p>人それぞれですが自分にとって施設はとても良いところでした！</p>
<p>学園でわ色々とお世話になりました</p>
<p>施設を退所したあとも、このようにアンケートというのがあるとほすごいと思います。施設に入って、自援に入り、いろいろ苦しいこともあったが、勉強になり、福祉に携わる仕事に就こうと、ますますおもいました！</p>
<p>今までお世話になりました。私が思ったのは自立援助ホームより、児童自立支援施設の方が職員がすごく暖かかったなあと思います。なんか家族みたいで良かった。良かった事も嫌だった事も私にとっては全てが思い出。</p>
<p>人間関係が上手くできたら施設での生活も良き物になったのかもしれない。言葉で接してくれたら良かった。</p>
<p>高校に進学し、2年目で自立援助ホームにお世話になりました。同居していた親が帰って来なくなり、高校卒業することはあきらめていましたが、職員さんたちが助けて下さり、転校することなく都内で卒業することが出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。社会人になり、改めて助けていただいたことを深く感謝しています。</p>
<p>児童養護施設の考え方や制度をもっと現代的にしたほうがよい。どうしても施設にいる人は一般児童よりも古い考え方で行動させられて友好関係やバイト等に支障がでる。</p>
<p>〇〇〇〇(施設名)に感謝している 本当に困ったとき助けてくれる安心感がある 他の施設にはない、親身さがある スタッフも本気でやってくれる。</p>
<p>〇〇〇〇(施設名)の助けがあって生きてこられた。今生保じゃなかったら私は死んでます</p>
<p>ひじょうにためになった。これからもよろしくお願いします。</p>
<p>色々な施設を経験をし、自立援助ホームが一番、将来につながる場所だと思いました。児相の方、ホームの方々に大変感謝しています。</p>
<p>施設に行けば行ったぶんだけ多くの事を学び、行って良かったと思う。でも、中にいた間の時間をうめるためにみんなが良い方には行かない。</p>
<p>施設の先生方が熱心に私をかえる事に協力してくれました。高校必ず卒業します。</p>
<p>今回のアンケートは、母が記入させて頂きました。娘は、生活も乱れております。現在、ほとんど在宅はしておりません。自由気ままに、遊んでおります。時が経ち、自らが気付く以外、道はないと思っております。お世話になりました。〇〇児童相談所の〇〇先生をはじめ、〇〇〇〇(施設名)の先生方には、心より感謝いたしております。ありがとうございました。</p>
<p>つらかった。でも仕事にやくだった。</p>
<p>たまに〇〇〇〇(施設名)に戻りたくなる(笑)</p>
<p>今年、大学に進学します。私が思うに、施設に入っても入らなくてもあまり変わらなかったと思います。施設での友人関係で、ずっと苦しい思いをしたので今の生活は幸福です。</p>
<p>けして楽ではない生活だったがとてもためになりました(←自立支援施設)</p>
<p>里親家庭にて正式に養女手続き完了しました。</p>

記載内容	
	里子は相談できる場所がなかった。
	里親の養女として20才の時にになりました。
	里親さんには大変お世話になりました。すごくかんしゃしています。今は交流がありませんが、本当にかんしゃしています。
	里親とは、約13年ほど(5才～18才)ほど、一緒に生活しましたが、実子のように、育てて頂き、私も、本当の親だと思っています。本当に感謝しています。
	措置解除する前後は不安だったけど、里親とワーカーさんが協力してくれたので、とっても助かりました。
支援に関する要望など(経済的支援、相談支援)	
	本当に辛い人達は、連絡とかもとれなかったり、できなかつたり苦しんでいると思います。解決する事はできなくても、聞いてくれる人がいるだけで救われたのかなと…。今は幸せに笑える生活があるので、いいですが、過去は消しさりたいくらいイヤです。少しでも役に立てれば幸いです。退所後のケアが必要だと思います。施設からでしまえば終わりではなくて。
	施設出身者が苦勞するのは、やはり経済面が多いと思います。生活費・学費の援助を充実させてほしいと思います。
	親の社会的地位(特に経済力)が、親を選ぶ事が出来ない子供の人生を決定する様な今の日本の福祉には失望する。社会へ出る為の支援を(施設の子供達が生きる意義を見出す為にも)もっとすべきである。親が面倒を見てくれない子供達の最後の生きる為の糧は、他でもない国の支援(福祉援助)だけなのだから…。
	退所後の経済的支援や相談活動が足りていないと思います。施設出身者が集まることのできる機会を施設側が用意するべきだと思います。
	施設卒園者の暮らしを把握しておきたいと思つてのアンケートだとおと思いますが、まともに生活できない人にとってはこのアンケートを書いて送るのは困難だとも思います。このアンケートを書いて送ることのできない人達の事も少し考えてもらえると嬉しいです。
	施設に集まる子供も昔とちがって親が裕福だが心に問題を抱えて入るケースが増えていると思う。様々なレベルでの支援が必要。施設の同期十数人中、生活保護が3人いる。いろいろなケース、パターンがあるにせよ、命づな、タメ、寄りそってくれる人、制度が必要だと思う。
	日本の雇用が心配です。発展途上国では子供が金になりますから、子供が増えます。人権も何も無いですからね。日本で金にならない子供を育てるのは難しい事ですから。
	夢をかなえるためにもう少し支援してもらいたかった。退所した後、どうすればいいのかわからないことだらけだったので、もう少し退所後についてくわしく説明してほしい。
	私の場合は卒園した直後、学生と社会人のギャップにたえられず、仕事をやめてしまったり、体調をくずしたりしてしまったので、卒園直後に、もっと施設の大人とコミュニケーションをとりやすい仕組みがあったらいいと思います。
	このアンケートを通してこれからの子供達に明るい未来を。口先だけでなくアンケートをとったのであれば有言実行してほしい。何度も何度も都や国に期待をうらぎられた。もっと都や国の職員は児童施設にいる子供達のことを自分の目で見て&聞いてほしい。
	施設で出ているお金(おこづかい等)はどのように自分の手元にきているのかについての説明がたりない気がしたので、もっと説明することで、お金大事さを知れるのではないかな。
	もっとビシバシ教育したのがいいです。やさしすぎるし、自立したときに誰かを頼らなきゃ生きていけない人が多い。
	施設に入るといっただけで、心にキズがのこります。カウンセリングに力を入れてほしいと思います。
	自分は、色々な経験させてもらって、今は、最高つて思う。けど、色々…教育的…何だろう…?? 不器用な子がイッパイ居ると思うから、そこを、コミュニケーションが取れる子供が増えればと思う。それが大事だと思う。それが出来れば、大体は通用する気がする。職員には、もっと子供を叱った方がイイと思います。学校とは違うんだし。今の職員たち、皆は知らないけど、自分達の時より甘いかんじする。周りの目とかあるかもだけど。自分たちと同じ、環境の子供が立派な大人になれる用がんばって下さい。他にもイッパイ言いたい!!

記載内容	
	私のまわりには施設に入っていた人があまりいません…。だんなの実家の近くで友達になった人が施設出の人がいました。熊本の施設はすごくきびしいとかで良い思い出はないそうです。私はそんな彼女の話を書いて私は良い施設で育ったと思っています。一番大切なのは本気で子供と向き合うことができる人を施設に置くべきと思っています。私の担当だった〇〇〇さんはとても私達の事を大切にしてくれて今でも電話や東京へ帰った時に話をしています。子供と向き合う事ができない人は施設で働いては子供がかわいそうだと思います。
	養護施設での生活は役に立った面もあるけれど、社会性を身につけるには足りなかったなと思います。もっと外へ出て色々な社会勉強をする機会をひろげたほうが良いと思います。
	社会適応できる力を在園中に身につけられると良い。例えば一般常識。…できないことが多く当初苦労した。
	施設に入所した事で高校にも行けて本当に感謝しています。ただ、高校卒業後、実家などが無いと寮のある会社に就職するしか選択がなかったので進学も選択できるような環境があると将来の幅も広げることができたと。あと当時は、アルバイトが出来なかったのも不便でした。将来の為に少しでもちょい金があったので。
	施設職員さん足りずともいそがしいので相談したことはありません。昨年1度だけ電話かかってきただけです。「日向ぼっこ」は知りませんでした。職員さん人数ふやしてお給料も仕事内容はハード大変なので多くしてあげてください。
	個人差がありますが、自分としてはもう少し1人1人の個性や性格を理解して貰えた方が、自身のコントロールがバランス良くなったのかも知れないな、と思いました。ですが今は今、自分のサイズで生涯が終えれば良いと思います。
	退所後～2年間は気持ちが不安定だと思うから、特に助けて欲しい。
	結婚式をあげてないからどの位の資金がかかるか知りたい 将来こゆうお金(子どもの進学資金、幼稚園、保険、他)でいくら必要か知りたい、今知っておけば貯めかたを知っていたのに…
	生活費、生活費の支援が欲しいです。
	退所してからお金の援助をしてほしい。
	児童養護施設を卒園した子どもは、経済的にも精神的にもとても大きな困難を抱えていると思います。自力で生活することの大変さを身をもって体験したこととともに、私はいまそれを支えてくれた周りの人達にとっても感謝しています。子どもたちが少しでも前向きに、充実した生活ができるような支援をよろしくお願いします。
	施設にいた頃、自立支援寮があり退所に向けて自活訓練をしたが実際に一人暮らしをして訓練で行った事と違い大変だった。退所してからは一人で全ての責任を負うことになるので、自活訓練ではもっとお金の使い方をシビアに指導するべきだと思う。
	ある程度子どもが家庭に戻る事が想定される場合、職員と保護者が子どもに関して情報共有をできるように努めてほしい。保護者が、自分の子どもが施設でどういった養育を受けてきたのか、よくわからないという状況では、家庭の再統合が成功することはないと思います。また、退所後のフォローのために、児童福祉課や職員が定期的に家庭訪問をするなどの対策が必要かもしれません。とにかく、施設と家庭の養育方針や生活習慣の違いから起きうるストレスを軽減することは、子ども自身が自己肯定感を持って育つ上でも、親の育児不安の軽減のためにも、重要ではないでしょうか。
	知らない事ありすぎ。知るけんりがあるなら全部教えて下さい。
	じゆうきよを人をおどしたりだましてかってにきめないでほしい
	施設にカウンセラーの方を置いて欲しいです。話をただ聴いてほしいとき、職員の主観が入って嫌な気持ちになったことがある。
	施設を出た後のバックアップ。施設に居たとき、職員(一部)から無視を受けたことがある。考えが有ってのポーズかもしれないが、伝わりずらく、居心地も悪くなる。施設職員には、人の人生をバックアップする人として教育、成長が必要と感じる
	措置解除までの間に、医療・就職・相談窓口・各種制度・契約などの仕方や方法を教えてもらう機会が無ければ、解除後もし一つでも問題が起きたなら、すぐ様行きづまってしまう。

記載内容	
	施設を出た人は出てから周りとの違いを感じて寂しく思っている人が多いかもしれません。一番は相談相手がない人が多いかもしれません。
	なやみがいっぱいあっても相談できる人がちかくになくて困っている、どうしたらいいんだろう。いいかいけつほうほうあったらおしえて下さい。
	家族がバラバラ。いつも一人。たまに施設に帰りたいて思う時がある。なんでも相談できる人がほしい。
	退所した後、相談できる機関があるのを知らなかったの、困ったことがあったら相談したい。このアンケートを受けてみて、バイトしなきゃ、とか色々考えさせられた。これからのことをもっと真剣に考えたい。
	退所してずっと困ってることは賃貸住宅の保証人です。毎度施設長に頼むのが正直嫌です。(すごく気まずい)家を引越したいのにまた保証人になってとも言えずで困ってる。家族が保証人になれないケースの場合の何かもっといい方法はないのかな・・・と思う。
	退所後、すぐの場合は連帯保証人などになっていただけるので、賃貸アパートなど入居できますが、数年たってしまうとたのみづらいこともあり、保証機関もありますが、施設出身だと低収入の子も多いため+αのお金がかかるのがキツイです。施設出身者で身内がいらない人向けにアパート等の保証人を公的にしていただけたらと思うことがあります。
現在困っていること、将来のこと	
	資格をとりたい
	学校行きながら、働くのが大変でした。でも、必ずまた大学行きたいです。
	今、うつ病とてんかんで困っている。人とのコミュニケーションに困っている。アイドルおたくがやめられない。掃除に困っている。失恋の傷が癒えない。
	生きる事が大変しんどいです。生きる事をやめることも真剣に考えております。
	今後、卒業したら再度留学を考えています。
その他	
	「日向ぼっこ」はどうやったら利用できますか？
	このアンケートを答えた事によって、児童養護施設出身の人達への支援が少しでも増えたら嬉しく思います。今後このようなアンケートは続けて行って欲しいと思います。
	遊び方を！！
	なつかしかった。来てみて2年ぶりに。
	社会で生活するには、炊事、洗濯、金銭管理等の基礎的な力と、生きていくための心構えが必要。学ぶ機会は数多ある、身に付けるかどうかは自分次第。啓蒙につとめた方がいい。
	施設で生活をした人達は、心に闇を抱えていると思います。その中で先生たちが減り、子供達が増え今の世の中を反映してると思います。決して施設にいた事を負に思っで欲しくないです。
	基本的に「日向ぼっこ」があまり好きじゃない。活動内容も全てではないがあまり理解出来ない。自分は、お世話になった施設に本当に満足している為。
	孤独の神に選ばれたからこんな景色の中に来た
	この様なアンケートをさせて頂きまして、誠にありがとうございます。退所してから、人間関係でつまづきました。本当に怖い思いもしましたが、何とか今は少しずつ大丈夫になっています。また、この様なアンケートを是非、受けてみたいと思います。
	遊ぶお金がほしいけど貯金している 施設でやった野球が楽しかった
	これ以上 オレに関わるな！！
	今わだれも信じれない。

記載内容	
	今後の卒園者達の為に役立てて下さい。
	ぜひ、アンケートを役立てて、よい支援体制を築いて行って下さい。
	〇〇〇〇(施設名)に自由に遊びに行きたい。※親から一言:個人情報を考えるのはわかりませんが退所した年齢に合う質問内容で対応してもらいたいです。別々の質問表になるのはわかりませんがうまく対応してください。
	アンケートも良いですが各家庭、施設をピックアップして訪問して話を聞く。大変と思いますが・・
	障害者向けのアンケートを作成した方が良いと思う
	これってやくにたつの・・・??
	わからない所があつて書けなかった・・・ 質問に対し変な回答だったらすみません。
	このアンケートは12月に送られてきたみたいだが、私、本人に届いたのは1月12日だった。×切りも近いし、もっと早目に送れたはず。そういった部分で、施設長、責任者としての自覚が足りないと思う。
	こういった統計をとることは非常に意味のあることだと思います。結果をぜひ見てみたいです。
	このアンケートが今後どのように役立っていくのかを知りたい。・アンケートの費用ってどれくらいかかっているんですか?・車の免許を取ったのは良いが、車買うお金が・・・すみません一人ごとです。
	個人が特定されてもおかしくない質問があることに対し疑問を抱いた
	アンケートの質問内容が難しいです。
	アンケートの質問内容がむずかしい!
	IVの5の質問は施設で手続きをして支払われた金額なのか己のみの負担分なのか不明。この様な「何を」解答して欲しいのか不明である質問事項が多々あり解答に困った。
	質問表は、ちょっと長い気がしました。10分で終わると書いてありますが文章を読んで答えを考えなくてはいけないので10分では終わりませんでした。仕事が忙しいのもう少し簡単な感じだったら良かったです。質問があまりすぎる気がします。
	長いですね。
	今現在が、高校生なので、『V、最後にお伺いします』の⑤の質問に対してどれがあてはまるのかがわかりませんでした。
	返信用封筒に「のり」を付けて下さい。
	面倒な内容は抜いて欲しい

※記載内容は原文のまま（ただし個人情報は除く）

第3章 まとめ

1 調査結果から

本調査の回答者の中には、雇用形態の不安定な状況や生活保護の高い受給割合などに見られる「経済的な問題」や、困ったときに親や家族に頼ることができない、相談できる人がいないという「相談相手の問題」など、現在の生活において様々な課題や不安を抱えている人がいる。

また、その背景には、高校中退などにより就労自立を余儀なくされる子供が多いことや、大学などへ進学する子供が少ないことなど、学業に関するハンディキャップを抱えている実態が見られる。

なお、今回のアンケート調査は、施設や養育家庭が連絡先を把握している方を対象に実施しており、連絡先が分からない方の状況は把握できていないため、こうした状況も踏まえて調査結果をみる必要がある。

2 自立に向けて

(1) 自立に向けた準備

親や家族に頼ることができない子供が、社会に出た後、自分の力で自立していけるようにするためには、自立に向けた準備が不十分のまま社会に出ることがないように、施設などにおいて、子供の自立生活能力を高めるための養育が必要である。

(2) 進学への支援と卒業までの支援

今日の厳しい社会経済状況のなかでは、中学卒業後や高校中退後に就労自立することは容易ではなく、様々な困難が予想される。学業に関するハンディキャップを抱えたまま就労自立を強いられることがないように、高校への進学を希望する子供への支援や、高校を中途退学しないようにするための支援が重要である。

また、大学などへの進学を望む子供が、経済的な問題や環境上の問題などを理由に断念することなく、家庭で育った子供と同じスタートラインに立って自立していけるようにするため、社会全体で支えていく必要がある。

(3) 施設などを退所した後のフォロー

施設などで生活している間は、施設の職員などから様々な支援を受けることができるが、子供は社会に出てから初めて様々な困難に直面する。社会的養護のもとで育つ子供が精神的にも経済的にも自立し、安定した社会生活を送ることができるようにするためには、施設などを退所した後のフォローが欠かせない。

社会に出た後、困ったとき、つまづいたときに、親や家族に代わって「支えとなる人」が必要であり、子供がそれぞれの状況に応じて相談しやすいよう、施設などを退所した後も幅広く支援する取組が必要である。

